鳥海ダムだより

国土交通省　東北地方整備局　鳥海ダム工事事務所　第115号　2023.3.20 発行

令和４年度の工事の状況をお知らせします。

令和４年度は、昨年度に引き続き、転流工（仮排水トンネル・仮締切(地中壁)）や付替道路等の工事用道路などの工事を実施し、昨年の12月18日には子吉川の流れを仮排水トンネルへ切り替える転流式を行いました。工事に伴い、大型車両が道路を通行するなど地域の皆様には、ご不便をおかけしましたが、ご理解とご協力に感謝いたします。施工した建設会社の皆様には、気象条件などの困難を乗り越えて施工していただき、ご尽力ありがとうございました。

引き続き、安全に留意しながら工事を着実に進めてまいりますので、皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

①転流工工事（仮排水トンネル）
コンクリート巻き立て工完了状況

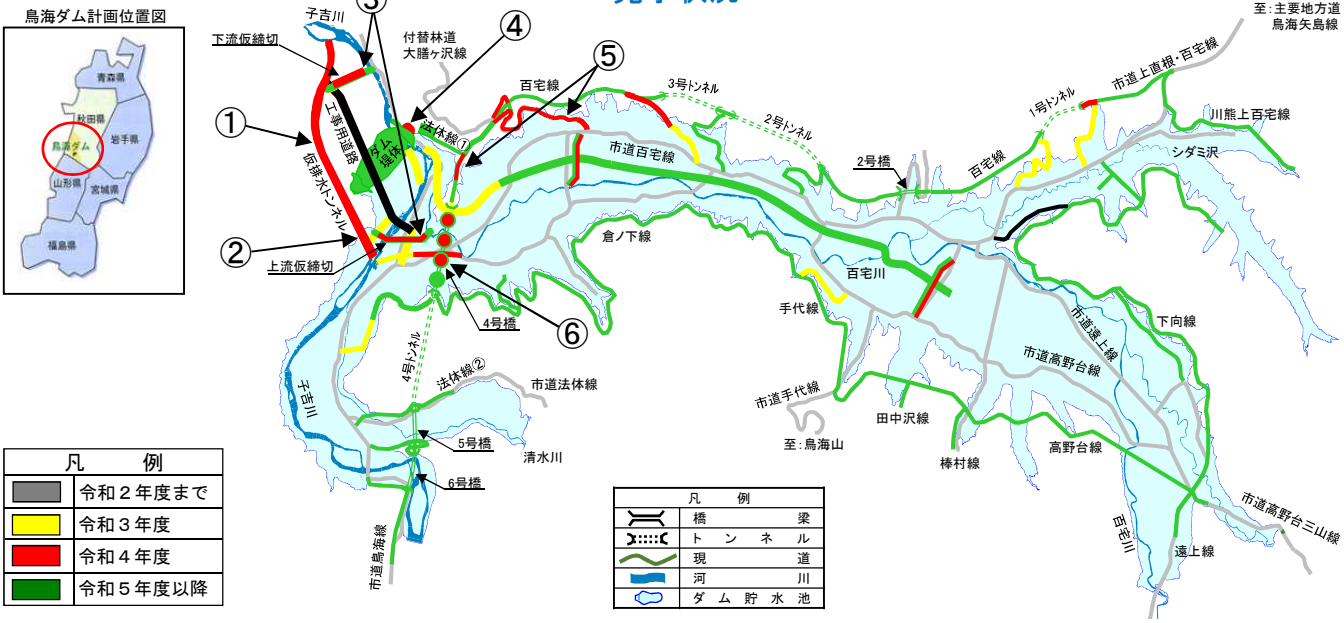
②転流工工事（仮排水トンネル）
呑口坑門工施工状況

③仮締切（地中壁）工事
SMW機組立状況（上下流）

④右岸上部掘削整備工事
施工状況

⑤付替道路工事
大膳ヶ沢地区路体盛土
完了状況

⑥付替道路4号橋下部工工事
P3橋脚施工状況



「子吉川水系河川整備学識者懇談会」を開催しました

令和5年3月9日（木）、鳥海ダム工事事務所において、「第9回　子吉川水系河川整備学識者懇談会」を開催しました。「子吉川水系河川整備学識者懇談会」は、平成24年に設立したもので、学識経験者等で構成されており、「子吉川水系河川整備計画（大臣管理区間）」の策定及び変更、事業の進捗状況についてご意見を伺うことや、事業評価の審議を行うことを目的としています。

懇談会は、東北地方整備局の板屋河川部長が開会にあたり挨拶を述べ、続いて委員の紹介、議事の審議へと進行しました。

今回の懇談会では、「子吉川水系河川整備計画（大臣管理区間）」について、当初策定以降に変更が必要となった鳥海ダムの目的、型式、諸元などについて、改訂（素案）に対する意見を頂きました。その後、子吉川水系河川整備計画（大臣管理区間）及び鳥海ダムの進捗状況を、事務局から委員へ説明いたしました。

懇談会でご指摘のあった点を留意し、今後の事業に反映させていきます。

子吉川水系河川整備学識者懇談会　委員

氏　名	所　属　等
石井　千万太郎	元　秋田大学　准教授
沖田　貞敏	秋田県自然史研究会　会長
加藤　竜悦	秋田県鳥獣研究会　会長
金　主鉉	秋田工業高等専門学校　創造システム工学科　土木・建築系国土防災システムコース　教授
嶋崎　善章	秋田県立大学　システム科学技術学部経営システム工学科　准教授
杉山　秀樹	NPO法人　秋田水生生物保全協会　理事長
永吉　武志	秋田県立大学　生物資源科学部アグリビジネス学科　准教授
湊　貴信	由利本荘市長
松冨　英夫	秋田大学　名誉教授

敬称略、五十音順

懇談会の会場の様子

◇埋蔵文化財【清水沢遺跡】の発掘調査結果について◇

付替市道百宅線4号橋下部工（P3橋脚）付近の埋蔵文化財　清水沢遺跡については、「鳥海ダムだより　107号」でも紹介していましたが、秋田県から発掘調査の結果について公表がありました。別紙に公表の内容が記載されていますので、ご覧下さい！

鳥海ダム建設事業の流れ（今後の予定）

○環境影響評価完了 → ○基本計画告示 → ○用地補償基準妥結 → ○用地補償契約 → 現在 → ○工事着手（道路・転流工） → ○ダム本体工事 → 道路完成 ○付替道路 → 供用開始 → ○試験湛水（開始・終了） → ●事業完了（竣工）

編集後記

3月になってからは朝夕は冷え込みますが、日中は暖かくなりました。チューリップや水仙は芽を出してきて、花の季節の兆しが見えるようになってました。やっぱり春は気分が明るくなります。新しいことを始めようかという意欲が多少わいてきます。

令和4年度、皆様方にはお世話になりました。来年度も引き続きよろしくお願いいたします。

安全・安心の子吉川に抱かれて、より豊かに暮らせる、わたしたちの郷土のために。

国土交通省東北地方整備局鳥海ダム工事事務所
〒015－0885　秋田県由利本荘市水林408番地
TEL. 0184-23-5120　FAX. 0184-23-5451
ホームページアドレス　https://www.thr.mlit.go.jp/chokai/
e-mailアドレス　thr-chokai01@mlit.go.jp

清水沢遺跡　　出典:秋田県埋蔵文化財センター

清水沢遺跡は、県指定名勝である法体の滝から北に約1.4km、鳥海ダムの建設地である百宅地区に位置し、子吉川とその支流である百宅川（ももやけがわ）の合流地点近くの左岸側、標高約390mに立地します。(①)

調査の結果、土坑墓や土坑などが検出され、遺跡は江戸時代の墓域であることが分かりました。土坑墓は旧地形が微高地状に高くなっている調査区中央部南側に集中して見つかりました。この土坑墓には長さ1.5m以上で平面形が楕円形のものと、径0.5m前後で円形に近いものがあります。SK32土坑墓は長さ2.3m、幅0.8m、深さ0.9mと大型で、中からは骨片の他、寛永通宝、青銅製の煙管（きせる）、鉄製の鋏（はさみ）などの副葬品が出土しました（②)。寛永通宝は6枚あり、江戸時代この地域にも六道銭（ろくどうせん）の風習があったことが推測できます。小型の土坑墓には骨片と炭化物が入っているものがあり（③)、火葬した遺骨を埋納した遺構である可能性があります。

江戸時代より下の層からは、10世紀に噴火した十和田火山の火山灰を検出しました。火山灰の堆積は厚い所で8cm程ありました。堆積層は下に向かって灰の粒子が大きくなっており、一次堆積であるとみられます。鳥海山付近でこの火山灰が見つかったのは初めてです。

火山灰のさらに下層から、弥生時代の土器が出土しました（④)。この層位では生活の痕跡が確認できないことから、河川の洪水などで土砂とともにこの場所へ流れ着いたものと考えています。しかし、この土器の表面には煮炊きによる吹きこぼれが炭化して付着しており、百宅川上流のどこかに集落があったことが推測されます。

今回の調査は百宅地区では初めての本格的な発掘調査でしたが、江戸時代の墓域の広がりと葬送の一部が明かになりました。また、平安時代に十和田の火山灰が飛来していることや弥生時代の集落の存在の可能性など、今後のこの地域での調査にとって有益な情報を得られたことも大きな成果でした。